



“ふれあい”から
“支え合い”へ!



おかやま小地域福祉活動 事例集

ご近所福祉

ネットワーキング活動

サロンで生まれたつながりが地域を変える!!



岡山県社会福祉協議会 地域福祉部
ご近所福祉ネットワーク活動・支え合いマップ研究会

はじめに



今日、在宅で暮らす高齢者や障がい者等の地域での孤立や閉じこもりをいかに防いでいくかが、大きな課題となっています。その解決に向けた取り組みとして、注目されるのが、身近な生活圏域を単位に住民主体で開催される「ふれあい・いきいきサロン」であり、県内でも現在約 1,800 箇所で行われています。今後においては、サロンでの“ふれあい”で培った人と人とのつながりを、いかに地域での日常的な“支え合い”活動へと繋げていくかが重要になってくるといえます。

そこで現在、岡山県社会福祉協議会が推奨しているのが、ふれあい・いきいきサロンの仲間同士で見守り・声かけを行い、支え合い活動へとつなげていく「ご近所福祉ネットワーク活動」です。

平成 20 年度は、この「ご近所福祉ネットワーク活動」及びその活動におけるニーズキャッチの手法である要援護者の「支え合いマップ」作りについて、活動の必要性や今後のサロン活動の展望について検討するとともに、県内事例の発掘・調査並びに普及啓発を目的として「ご近所福祉ネットワーク活動・支え合いマップ研究会」を発足し、各地域での活動の情報交換を踏まえ、協議してきました。

この事例集では、岡山県内で取り組まれている「ご近所福祉ネットワーク活動」、「支え合いマップ」作りの事例について、それぞれの地域の状況に応じて、活動を考え、取り組んできた経過が、思いとともにつづられています。これから、地域で活動を進めていくにあたり、参考にいただければ幸いです。

平成 21 年 3 月

岡山県社会福祉協議会 地域福祉部
ご近所福祉ネットワーク活動・支え合いマップ研究会

も く じ

p2 ご近所福祉ネットワーク活動とは

p4 県内事例の紹介

事例 1 津山市社会福祉協議会

“住民流”を貫け！ふれあいサロンを中心とした
「災害時対応 = ご近所福祉ネットワーク」
の取組み

p8

事例 2 和気町社会福祉協議会佐伯支所

地域が家族をモットーに!!
「ご近所福祉ネットワーク」
の取組み

p10

事例 3 吉備中央町社会福祉協議会

自分たちの地域は、自分たちの手で!
「ご近所福祉ネットワーク」
の取組み

p12

事例 4 浅口市社会福祉協議会

地域福祉のムードメーカー！福祉委員を中心とした
「ご近所福祉ネットワーク」
の取組み

p14

見張りにならない見守りをするために

p16

毎日型のサロン紹介

「サロン・なんだ村」(岡山市南区灘崎)

ご近所福祉ネットワーク活動

とは...



「地域での孤立・閉じこもり防止」と「生活・福祉課題の早期発見の仕組みづくり」

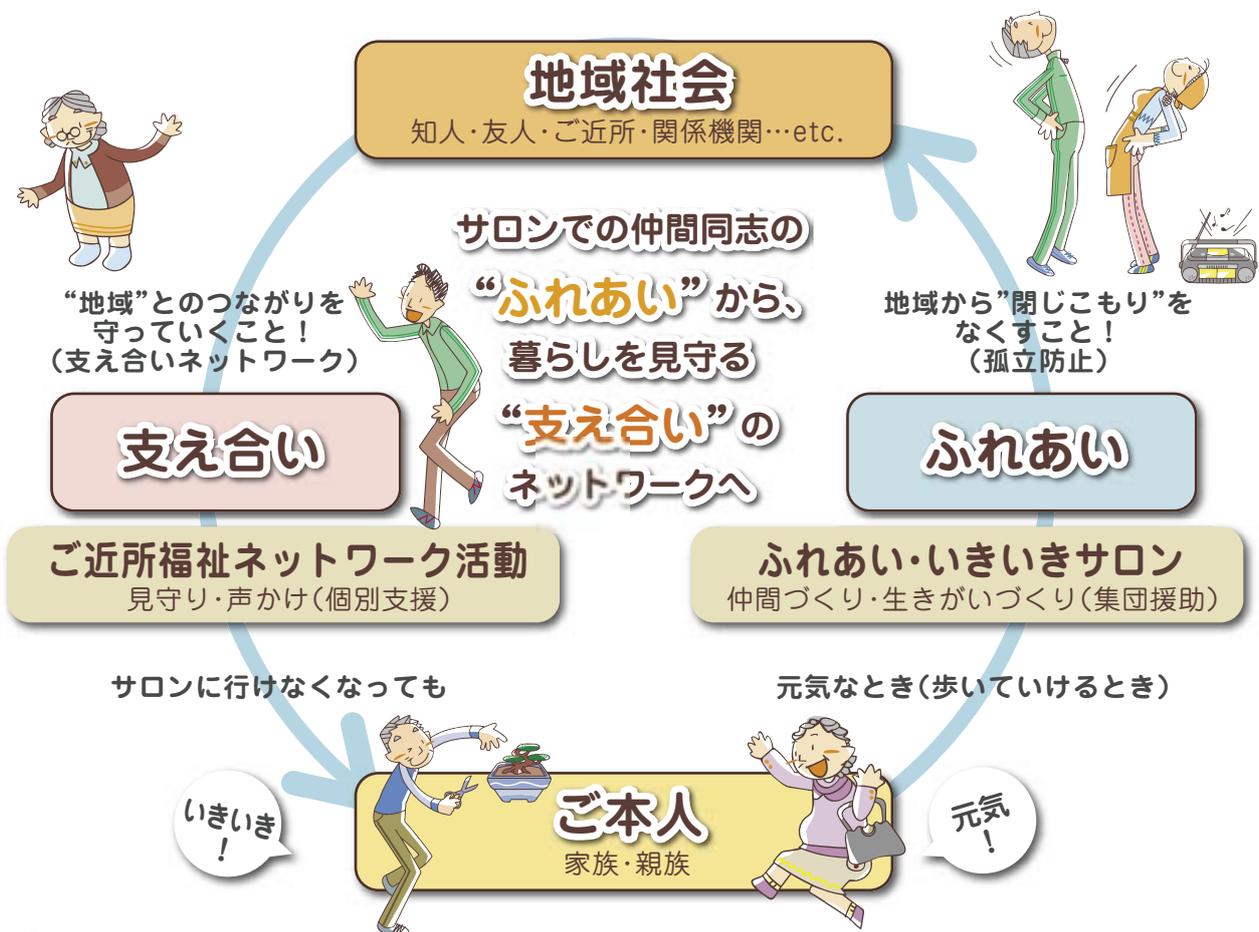
その目的は、“地域での孤立や閉じこもりの防止”と“生活・福祉課題（困りごと）の早期発見の仕組みづくり”です。そして、その対象は、ふれあい・いきいきサロン同様、子ども（その保護者）から高齢者、あるいは障がい者はもとより、地域住民全体であることはいうまでもありません。

昔ながらのご近所の支え合いの現代版の活動

この活動は、簡単にいうならば、「ふれあい・いきいきサロン」に集う方々のなかで、例えば「一人暮らしで普段の生活に不安がある方」、「サロンの日以外は閉じこもりがちの方」、あるいは、「体調の不具合や病気等で、サロンに出て来られなくなった方」など、何か地域で気になる方について、同じサロンに関わっている仲間や、またその地域（地区）の民生委員や福祉委員、またご近隣・近所の方々が協力しあって、見守り（安否確認）・声かけ訪問やそのほかちょっとした生活上の手伝いなどを行っていく活動で、言うなれば、昔ながらのご近所・近隣同士の助け合い活動を現代版に置き換えたものといえます。

合言葉は、“ふれあい”から“支え合い”へ

ご近所での見守り、声かけ



家族、地域、専門職が一緒になって支える仕組み

もし何かあった際には、社協や地域包括支援センター等、各種の地域福祉の専門機関へ早期に連絡がいき、速やかに専門的なアドバイスや支援・サービス等が行われていく仕組みづくりも併せて行っていきます。

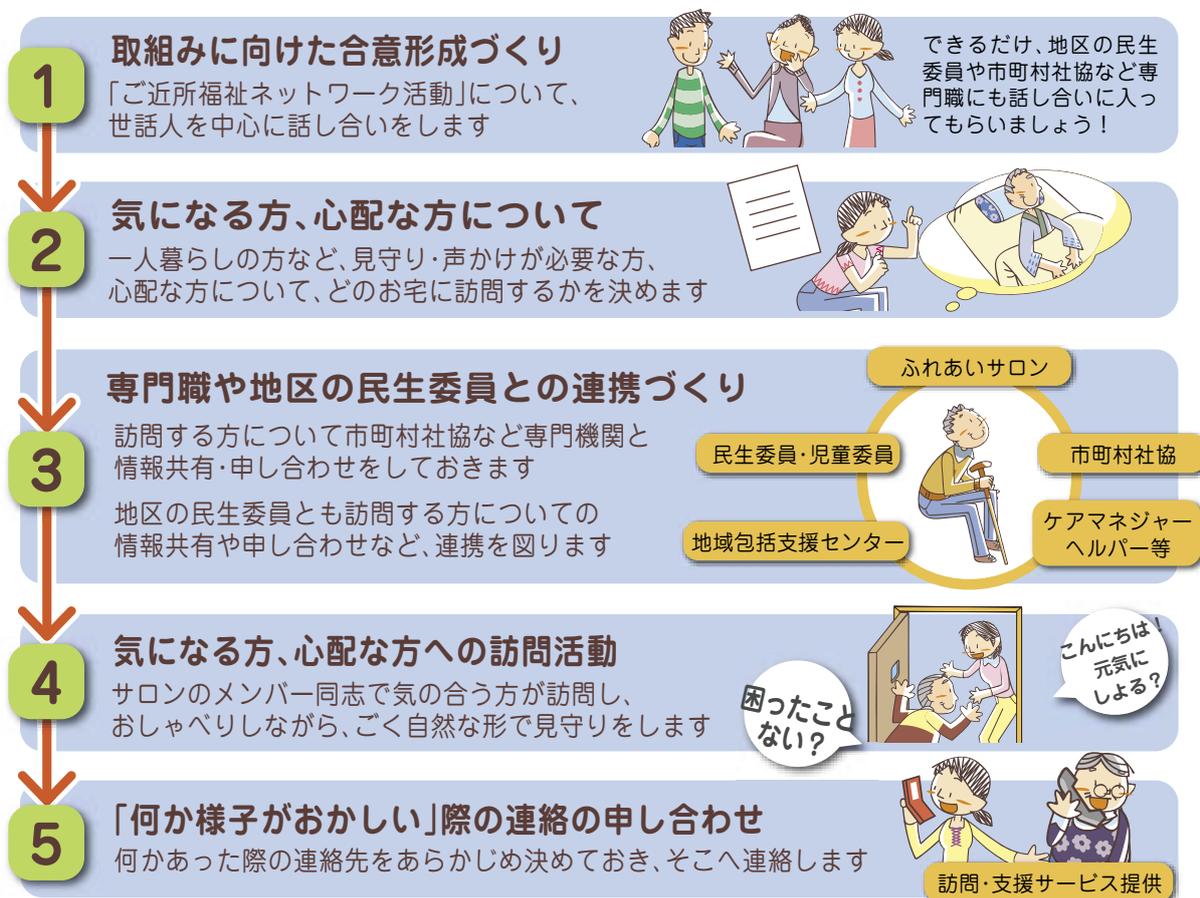
最終目標は、誰もが住み慣れた地域で、安心して、いきいきと暮らせるためのふれあいと支え合いの仕組みづくり

「ご近所福祉ネットワーク活動」は、これまでの「ふれあい・いきいきサロン」活動を、さらにもう一歩深めた活動展開として、現在、サロン活動に関わる住民関係者（参加者・民生委員・福祉委員・愛育委員他）やそこに関わる地域福祉の専門職が中心となって、まず、先駆け・手始めに進めていくものですが、言うまでもなく、この支え合い活動の輪を、最終的には、地域（地区）全体にまで広げていく視点を持って、取り組んでいくことが重要です。

そして「ご近所福祉ネットワーク活動」の最終目標は、日々の生活のなかで“気になる人（心配な人）”に対して、同じ地域（地区）に住む地域住民が常日頃から福祉の視点を持って、ふれあい・見守っていく、そしてそうした“気になる人（心配な人）”が出てきた際には、「どうすればその人が、住み慣れた地域で、安心していきいきと暮らしていけるのか」を、同じ地域（地区）に住むご近所・近隣の住民、また民生委員や福祉委員等の住民福祉関係者、さらにはその地区の地域福祉に関わる各種専門職が一緒になって考え、支えていける“ふれあいと支え合い”の仕組みを創り上げることであり、さらにその地域（地区）に脈々と継承される福祉の風土として、根づかせていくことにあります。

ご近所福祉ネットワーク活動の概要・流れ

ご近所での見守り、声かけ



“住民流”を貫け！ふれあいサロンを中心とした 「災害時対応＝ご近所福祉ネットワーク」の取組み



■おすそわけパーティー

くわかみ
津山市桑上地区

■当日のメニュー



活動のきっかけ

現在、市内で150箇所以上広がっている“ふれあいサロン”ですが、各サロンのリーダーさんから寄せられる“ふれあい”から“支え合い”へといかにつなげていくのかという相談に対して、明確な答えを出せていない現状がありました。

そこで、本会として、もっとも熱心に相談をいただいていた桑上のサロンをモデル地区に指定して、サロンらしい支え合いについて一緒に検討していくことになりました。

① 取組みに向けた合意形成づくり

まずは、サロンの皆さんと一緒にどのような形が自分たちらしく、また無理のない“支え合い”なのかを考えていくことから始めました。

そして、検討していく中で昔ながらのご近所同士の“ふれあい”を支え合いに置き換えて、始めてみようということで、ご近所福祉ネットワーク活動への合意がなされました。

② 気になる方、心配な方についての話し合い

気になる方の選定に関しては、“支え合いマップ”という手法を活用し、サロン会員が持って

いる要援護者（ひとり暮らしや高齢者世帯などに限定せず）の情報を、住宅地図をかこんでみんなで印をつけ、その人と近隣住民がどのように関わっているかを線で結び、要援護者の選定とその人にとっての「実質的な」資源の掘り起こしを実施しました。

また、その際に住民力を把握するために“住民歴書”を作成し、自分たちの趣味や特技、出来る事などを出し合っていました。なお、作成にあたり要援護者だから助けてもらうだけでなく、その人も誰かに対して資源になりうることを念頭において作成していただきました。



■支え合いマップ作成中

③ 専門職や地区の民生委員との連携づくり

支え合いマップや住民歴書の作成を福祉関係機関や民生委員と一緒にすることにより、制度的な情報だけでなく地域の実質的な支え合いの状況や住民力を把握していただき、その営みに対して各々の立場からどのような支援ができるのかを考えていただくことができました。

④ 気になる方、心配な方への訪問活動 ★P7参照

★下図参照

今回は、“支え合いマップ”と“住民歴書”の作成により地域を診断した結果、“ふれあい”と“防災”というキーワードが浮かび上がってきました。そこで、サロン世話人との話し合いにより、いつものサロン活動を活用しての災害時対応を目的とした“おすそわけパーティー”を開催することとなりました。当日の内容としては、地域の町内会長、民生委員、消防団員、参加者の中で最高齢者（要援護者）による地域防災についての講話、昨夜の残り物や家で取れた米や野菜の持ち寄りよっての料理教室と会食をしました。

この取り組みのポイントは、何気ないサロン活動に福祉的（下記のとおり）意味付けをして、参加者全てが、自然に無理のない役割を担いサロンを開催することにあります。

また、実際にこの取り組みを実施してみると「災害時対応＝ご近所福祉ネットワーク」であることをサロン参加者の皆さんが気づき、見守りネットワークへと広がっていきました。

⑤ 「何か様子がおかしい」際の連絡の申し合わせ

サロン世話人や会員等が、要援護者等から相談を受けた場合には、今回パーティーに参加していただいた民生委員や福祉関係機関に連絡するよう確認できています。

また、これまで地域の皆さんでなかなか対応できなかった引きこもりの方（地域住民を受け入れない方）への対応について社協へ相談が入り、社協登録傾聴ボランティアの訪問による見守りができた事例があります。

★例)

普段のサロン活動

誘い合いによるサロン参加
(イメージは学校の登校)

※引きこもりがちな方や最近サロンに参加しなくなった方への声かけに発展

食事の持ち寄り

※食事の支援が必要な方へのおすそわけによる配食ボランティア

公会堂での調理

参加者に地元災害の歴史の講話

※要援護者の方にも役割をもっていただくことによりサロン参加を促す。

参加者みんなでおにぎりづくり

民生委員や福祉関係機関の参加

福祉的意味付け

災害時の避難対策

避難者への食事支援

避難場所での炊き出し

地元の危険個所の確認など

サロン参加者にお客様を作らない、
誰でもボランティアに!

行政・関係機関へのパイプづくり

今後の課題・次なる活動に向けて

今回の取り組みは、いわゆる昔ながらのご近所付き合いが根強く残る地域であったため、サロンの皆さんも取り組みやすかったと思います。今後は、この取り組みをご近所付き合いの薄い地域（集合住宅の多い地域）や著しい過疎の進んだ地域などで、ご近所福祉ネットワーク活動を取り入れていきたいと思っておられるサロンの皆さんと新たな取り組みを一緒に考えていきたいと思っています。

課題としては、ふれあいサロンで発見した課題をいかに行政や関係機関につないでいくか、またその課題解決に向けての取り組みに対して、本会として今後どこまで支援していくか検討が必要だと思っています。（文：津山市社会福祉協議会 松尾氏）



■ 消防団による
サロン会場への誘導風景

■ 研究会からの一口コメント ☺

きっちり住民のニーズに応えたもので、かつ型にはまらないユニークな発想の活動で、非常に社協らしい活動です。

タイトルのとおり、そこに住んでいる人が地域の課題を考えて、活動に取り組むことで、自然とその地域らしい活動になっているといえます。

■ 地区のデータ

団体名	： 桑上若返り健康教室
住所	： 桑上公会堂
人口	： 229人
世帯数	： 88世帯
高齢化率	： 33%
参加者数	： 26人
世話人の数	： 5人
開催回数	： 月1回
参加費	： 必要に応じて実費を徴収

■ 主な活動の流れ

H20.11.12	広島県廿日市市社協 酒井保氏を 招いて“支え合いマップ”づくり
H21.1.18	広島県廿日市市社協 酒井保氏を 招いて“住民歴史”づくり
H21.2.18	おすそわけパーティーの開催



住民歴書

年 月 日 現在	
ふりがな	
なまえ	姓
あだな	男 ・ 女

この地域に暮らして何年くらいになりますか？

我が家（あなた）の「自慢のお室」は？

子どものころ（少年・少女時代）の“楽しかった遊び”は？

今、生活の中で一番楽しみにしていることは？

得意なことは？（得意というほどではないが、「ある程度」できることは？）

昔、得意だったことは？（「昔取った柿餅」で、今でもできそうなこと…は？）

余暇はどのように過ごしていますか？（趣味など）

ほぼ毎日、欠かさずやっていることはありますか？

地域の中に“気の合う仲間”はいますか？

い る ・ い ない

あなたの家にとときどき訪ねてくる“地域の人（友だち）”はいますか？

い る ・ い ない

あなたがときどき訪ねて行く“地域の人（友だち）”はいますか？

い る ・ い ない

地域の中に家風以外で“頼りにしている人”はいますか？

い る ・ い ない

自分のことを「世話焼き」だと思えますか？

思 う ・ 思 わない

地域の人に「頼りにしていますよ」と言われたことがありますか？

あ る ・ な い

あなたが「今、一番やりたい」ことは何ですか？

地域が家族をモットーに!!

「ご近所福祉ネットワーク」の取組み

うぶ
和気町宇生 地区



■ 体操風景

活動のきっかけ

宇生地区では、平成9年ごろから、地区のボランティアを中心に「高齢者の集いの場作り」の取組みが始まり、回数や方法を模索しながらみんなで相談して進めてきました。

佐伯ふれあい会として正式に「すみれ会」（ふれあいサロン）がスタートしたのが平成12年4月からです。

区長さんをはじめ地域の住民が主体となって活動する「地域が家族」をモットーにお互いにふれあい、助け合い、信頼度を培い、「ともに生きる喜びを育てる」を目標に取り組む、区民みんなの楽園です。

しかし、この地区も年々高齢化率も上昇し、高齢者世帯、一人暮らし老人も増加傾向にありました。

そこで、安心して生活できる地域づくりを検討する中で、自分たちの地域は、自分たちで変えていくという住民意識のもと、見守り体制の必要を感じ、取り組むことになりました。

そして、平成21年に、福祉の輪、ふれあいの輪を地域全体へと広げる「ご近所福祉ネットワーク」を設立しました。

① 取組みに向けた合意形成づくり

まず活動の取りまとめ役「福祉委員」と「区内各地区担当者（六地区）」を選任して担当地区や地区全体の活動活発化への意見交換を行いました。

宇生地区では、福祉委員兼推進委員の2名、区長、民生委員、老人クラブ役員2名、ふれあい会のボランティア8名の合計12名が活動推進担当者となり、地区を小字6地区に分けて、それぞれの小字に推進委員を配置し、それとなく見守り活動をしています。

② 気になる方、心配な方についての話し合い

日ごろから気になる人に関しては、一人暮らし高齢者、高齢者世帯、障がい者を主に重点的に活動推進担当者が見守り対象者をリストアップし、定期的に会議を設けて話し合います。

③ 専門職や地区の民生委員との連携づくり

福祉委員、推進委員から出される情報をもとに、何かあれば民生委員とも一緒に話し合っていきます。早期発見につながることや困った状態の対応策など、各専門職の担当者と連携を図りながら、問題解決の糸口を見出します。

④ 気になる方、心配な方への訪問活動

気になる方や心配な方はそれぞれ個人差がありますので、一律に同じというわけにはいきません。

その方にあった対応が必要ですので訪問頻度、訪問時間などを配慮します。毎日訪問が必要な場合もあります。

また、民生委員や専門職、担当者と一緒に訪問する場合があります。

日常生活の中で、ごく自然に気付いたことを大事にいたらないように、個人の尊厳、人権を尊重しながら困っている人の相談にのっています。

生活安全の維持を図る必要事項などは、報告書に記入しておき、福祉委員や活動推進担当メンバーで協力して、解決にあたります。

⑤ 「何か様子がおかしい」際の連絡の申し合わせ

何かいつもと違った様子や行動が発生した場合には、日ごろの見守り状況が分かる訪問カードなどもチェックし、いつもとどのように違っているか、何か思いあたることはないか、地区担当者同士で話し合い、連絡先を検討します。

そして、社協、地域包括支援センター、行政の保健師へ連絡し、本人状況を的確に伝えます。

今後の課題・次なる活動に向けて

認知症の方や障がいを持った方については対応の仕方が難しく、どうしてよいのか分からないことが多いため、そのことについて正しい知識を学習するのを感じます。

今後は、そうした学習の場と合わせて専門担当者との話し合いもしていきたいと考えています。



■ ケース会議の様子

見守り記録カード

ご近所福祉ネットワーク 見守り記録カード			
氏名 (歳 男・女)		住所 TEL	
平成 年 月 日			
訪問者氏名	状況	見守り方法	訪問・TEL・()
独居	健康・病弱・入院中()	〈 特記事項 〉	
老人世帯	健康・病弱・入院中()		
障害者	健康・病弱・入院中()		

※該当欄への記入及び○印を付けて下さい。この情報は「ご近所福祉ネットワーク」活動の目的にのみ使用します。



■ 研究会からの一口コメント 😊

自分たちの地域の課題を、自分の問題としてとらえ、取組み、解決していく力「地域の福祉力」！小地域福祉活動の積み重ねにより、これを身に付けた地域の代表的な取組みといえる事例です。

地域福祉に近道はありませんし、終わりもありません。一つ一つの課題に前向きに取り組んでいくことの大切さを教えてもらう地域の活動です。

■ 地区のデータ

団体名 : すみれ会
 人口 : 213人
 世帯数 : 78世帯
 高齢化率 : 37.09%
 参加者数 : 25～30人
 世話人の数 : 12人(ふれあいの会世話人9人)
 開催回数 : 毎月1回(第2月曜)

■ 主な活動の流れ

H 9年 高齢者の集いの場作り開始
 H12年4月 すみれ会スタート
 H19年5月 お達者クラブ設立
 H21年1月 ご近所福祉ネットワーク設立

自分たちの地域は、自分たちの手で！ 「ご近所福祉ネットワーク」の取組み

吉備中央町
すぎたに
① 杉谷 地区
かわうちだ
② 河内田 地区



① 杉谷サロン（風船バレー風景）



② 河内田サロン（グランドゴルフ場で鮎の塩焼き）

活動のきっかけ

平成 20 年度赤い羽根ご近所福祉ネットワーク活動推進支援事業の助成をきっかけに、サロン活動等が活発な 5 地区をモデルに指定して、ご近所福祉ネットワーク活動の取組みを始めました。その中の 2 つのサロンの事例を紹介します。

① 杉谷サロン

① 取組みに向けた合意形成づくり

最初に、各サロンのリーダーの方に、活動趣旨を理解いただき、実際にサロンに出向いて活動についての説明を行いました。

その中で、サロンでできたつながりを活かした見守り活動である、ご近所福祉ネットワーク活動を始めるために、まずは自分たちの地域を知ろうということで、社協の提案で支え合いマップを作成しました。支え合いマップとは、要援護者と住民がお互いどのように関わっているかを線で結んでいくもので、参加者全員で、「この家には私が行っているよ」「そこは、私も行っているで～」とにぎやかな雰囲気を進めていきました。

このサロンのリーダーの方は、民生委員でもあり、以前から活動者として熱心に、地域の方の面倒をよく見られていた方でしたが、マップをおとしてみても、改めて大物世話焼きぶりにはびっくりしました。

② 気になる方、心配な方についての話し合い

杉谷サロンでは、活動の趣旨を説明した後で、すぐにリーダーの方を中心に、誰が誰を見守るのかという話し合いが行われ、それを元に役割分担した名簿を社協に渡してもらっていました。

以前からサロンの開催日も、介護サービスを受けられている方が参加できるように、サービスのない日を選ぶなど、お互いの情報を把握して活動されている状況だったので、スムーズに取り決めが行われたようです。

③ 専門職や地区の民生委員との連携づくり

今回、この活動を取り組むにあたり、社協と地域包括支援センター（以下 包括）と一緒に、サロンに出向くようにしました。

包括でも、一人暮らし実態把握などを行っており、そうしたお互いの持つ情報を共有しながら進めていきました。

④ 気になる方、心配な方への訪問活動

杉谷地区は、世帯数は少ないものの、範囲は広く、隣の家が見えないような地形です。そのため、普段からお互いを気にし合っており、「自分たちの地域を自分たちで！」という高い意識のもと、自信を持って活動をされています。活動も、「畑に姿が見えないなあ、行ってみようか」など生活の中での自然な見守りを実施されています。

しかし、決してアバウトというわけではなく、見守りの記録は、見守りカードに記入して、地域で保管しています。

⑤ 「何か様子がおかしい」際の連絡の申し合わせ

この地区では、サロンリーダーでもある民生委員さんが地域のキーパーソンとして活躍されており、何かあれば社協か包括に連絡がいくようにしています。

今後の課題・次なる活動に向けて

吉備中央町では、4年前から認知症予防講座を行っています。今年度は、予防ではなく、既に認知症になった方について、地域でどう見守っていくかという視点での研修を計画しており、そうした研修にご近所福祉ネットワーク活動に取り組むサロンのリーダーの方も来ていただく予定です。

② 河内田サロン

河内田サロンは、田んぼを埋め立てた土地に屋根を設けて、週に2回(木・日)グランドゴルフを主な活動にしているちょっと珍しい青空サロンです。

自分たちの健康のために、自分たちで考えて始めたということで、8:30～12:00までの間、地域の人みんなを誘って、軽食を持ち寄りながら活動しています。

この地区でも、ご近所福祉ネットワーク活動の指定を受け、見守り活動に取り組んでいます。

認知症になった方の情報もオープンにできる雰囲気、悪徳商法の業者が来たら、すぐに全員に連絡が回るという地域です。

見守りの記録は、活動者の方の情報を元に、サロンリーダーの方が一括してカードに記入を行います。記録カードは、社協が作成したのですが、保管は地域で行っており、月に1回、サロンのあとに、社協との情報交換の場を設けて、見守りの情報の共有をしています。

「この活動をして改めて、地域に足を運んで、顔を覚えてもらうことが大事だと感じました。地域で見守りをする意識が高まらないと、サロンにただお金を渡すだけでは続きません」と坂井さん。取材を通して、社協の基本である小地域福祉活動の意義を改めて感じました

(取材：岡山県社会福祉協議会
話：吉備中央町社協：坂井氏・木村氏
包括：黒瀬氏)

■ 研究会からの一口コメント 😊

この2つの地区は、どちらも自分たちの地域の課題は、自分たちで解決するという姿勢のもと、独自に工夫して活動をされています。見守り活動は、生活の中で自然に行うことが必要ですが、どちらの地域も、あえて役を設けなくて、お互いがお互いを見守る体制ができています。

また、社協と包括と一緒にこの活動に取り組んでいることで、情報の共有もスムーズであり、何かあった時に住民が迷わずに相談できる流れ(ネットワーク)ができている事例です。

■ 地区のデータ

■ 杉谷地区	人	口	: 60人
			: * 65歳以上 24人
	世帯数		: 22世帯
	高齢化率		: 40%
	サロン数		: 1

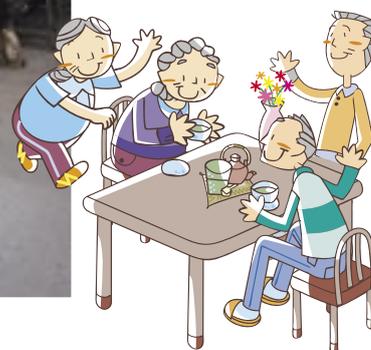
■ 河内田地区	人	口	: 120人
			: * 65歳以上 40人
	世帯数		: 33世帯
	高齢化率		: 33%
	サロン数		: 1

■ 主な活動の流れ

H14年	杉谷サロン立ち上げ
H19年	河内田サロン立ち上げ
H20年	ご近所福祉ネットワーク活動開始

地域福祉のムードメーカー！福祉委員を中心とした「ご近所福祉ネットワーク」の取組み

かもがた
浅口市鴨方 地区



活動のきっかけ

浅口市では、合併前まで、安否確認を兼ねたヤクルトの配布が行われていましたが、合併に伴い事業が中止になり、それに代わる高齢者見守り活動が必要になりました。

そこで、より細かく地域で見守るために、福祉委員の方々を中心とした見守り活動を検討しました。

① 取組みに向けた合意形成づくり

ヤクルト配布を受けていた方に、どのような形の見守りが良いかをアンケートしたところ、民生委員や福祉委員による週1回以上の見守りを希望する人が多数いることがわかりました。

そして、合併後初めての福祉委員会の中で、地域全体でお互いを支える第一歩を、福祉委員からはじめようということで、見守り活動への合意がなされました。

② 気になる方、心配な方についての話し合い

訪問対象者の選定に関しては、対象者を

- ① 一人暮らし高齢者
- ② 同居あるいは同じ敷地内に家族がいても、関係が薄い、ほぼひとりの生活
- ③ 高齢者世帯
- ④ その他福祉委員の判断で見守りが必要な方

という区分にして、年齢制限は設けなくて、生活実態に合わせて選ぶことにしました。

そして、社協が用意した対象者一覧表に必要な事項を記入して提出してもらいました。

③ 専門職や地区の民生委員との連携づくり

当初、選定の際に、民生委員に情報提供をお願いしたのですが、断られたため、福祉委員の集めた情報をチェックしてもらうという形で、情報の照らし合わせを行いました。最近では、情報提供はできないなかでも、「この人は気になる」という情報が民生委員の方から教えていた

だけることも増えてきました。

④ 気になる方、心配な方への訪問活動

訪問は、対象者一覧表を基に、名札を携帯して行きます。形は、様々で、ピンポンを押してお伺いすることもあるが、「今日は、カブ(バイク)がないから、ゲートボールだな」「カーテンは開いているけど、いない、畑だな」と、その人の日常生活の範囲で、見守り活動を行っています。

訪問したことは、記録カードに記入します。見守りや声かけ、様子の確認を行った日を記録するようにし、その中で気づいたことや変わったことがあれば、特記事項に記入します。カードを綴じるファイルは、福祉委員が管理し、引継ぎの際には、次の人にファイルを渡すことで、情報をスムーズに共有します。

⑤ 「何か様子がおかしい」際の連絡の申し合わせ

訪問した際に、訪問先の方から相談を受けたが、どうして良いかわからない場合は、社協に連絡が行くようにしています。

また、対応が困難なケースが入った場合の連絡票も作成しています。

これまでに、連絡が入って地域包括支援センターにつないだ事例があります。



今後の課題・次なる活動に向けて

最近では、民生委員との一層の連携強化、各地域の見守り活動の充実化を図るために民生委員と合同の会合の場を数回設けています。

また、浅口市では、介護支援専門員連絡協議会が、玉島警察署と連携を図って、行方不明者の対策のための連絡網を整備しています。

今後も認知症の方の見守りネットワークや悪徳商法対策、高齢者虐待への理解をより深めてもらえる取り組みを行い、活動に活かしていきたいと思っています。

(文：浅口市社会福祉協議会 小田氏)

■ 研究会からの一口コメント 😊

サロンからの見守りではなく、福祉委員さんによる「ご近所福祉ネットワーク活動」を展開しています。手順に沿った活動展開を進めており、民生委員との密接な連携の下ネットワークの強化を図り、着実に見守りネットワークを構築されています。

オレンジ色の見守りバッジは、グッドデザイン賞です。



■ 地区のデータ

人 口 : 16,387人
世 帯 数 : 5,586世帯
高 齢 化 : 27%
サ ロ ン 数 : 43
担 い 手 数 : 福祉委員 109名

■ 主な活動の流れ

H 1 4 年 福祉委員の設立
H 1 8 年 見守り活動についてのアンケート実施
H 1 9 年 ご近所福祉ネットワーク活動開始以降、研修会等を定期的に開催

見張り^{☹️}にならない、 見守り[😊]をするために



ここでは、「ご近所福祉ネットワーク活動・支え合いマップ研究会」で
出た意見をもとにした活動のポイントを紹介します。

ふれあいサロンからの見守り

ふれあいサロンの活動には、仲間ができる、健康維持など色々な良い効果がありますが、見守り活動をする視点からみると、この活動は、地域で孤立することを防ぐために、つながりを作るためのふれあい活動と言えます。

サロンは、楽しむ場であることが大前提ですが、これからサロンを作る場合やサロンを見直す場合に、こうした視点も含めて考えることも重要です。



「ごく自然な」見守りとは...

「ごく自然な見守り」とはどういう形をいうのでしょうか。よく言われるのが、「見守り」ではなく「見張り」になってはいけないということです。さりげなく見守るためには、朝カーテンが開いているか、夜電気がついているか、新聞はたまっていないか、を確認したり、犬の散歩の帰りにちょっと様子をのぞいてみる、サロンで作った食事を持って立ち寄ってみるなど、ちょっとした工夫が必要です。

また、いくらその人が見守りをしてるつもりでも、お互いが知らない関係だと、見守られる側にとっては、「知らない人がじろじろ見ている」といったことになりかねません。まず顔見知りになること、ふれあいサロンは、そのためにはもってこいの場所と言えます。まずは、つながりを作ってから、見守り活動を進めていきましょう。

また、都会のサロンで、範囲が広いところは、サロンの参加者同士が、家に帰ると見守りをできるようなご近所同士でない場合もあると思います。思い切って、自分たちの町のサロンの在り方を見直してみることも大事です。



個人情報について



見守り活動のときに限らずですが、地域で活動をするにあたり、色々な場面で、個人情報が問題になると思います。法律で決まっていると聞くと、どうしようもないとあきらめてしまう方もいるかもしれませんが、そんな必要はありません。

ご近所福祉ネットワーク活動は、サロンでの世間話や参加者が日常生活で知りえた情報を交換・共有して、見守りをする活動です。日常生活の中で近隣の人々の異変に気づき、手助けを近隣の人に声をかけて行うことは自然の行動であり、個人情報保護の規制には本来なじまないものです。ただし、知られたくない情報を勝手に公開することは問題があるので、当然プライバシーに配慮する必要があります。

もし、個人情報が問題になったときは、地域で集まって、自分たちの地域では、どういう考え方をとるのかを話し合うことが重要です。

記録について

いつ、誰が、誰を見守ったか、そのときの様子など、見守りを行った際には、こうした情報を記録しておくことは重要です。しかし、日常の中で見守りを行うのに、記録をつけるとなると少々面倒なものですし、また、記録をすることが困難な方もいらっしゃると思います。

記録する様式などは、地域ごとに相談して決めて、書けない人は、リーダーさんに一報を入れてもらうなど、工夫をすることで解消できます。是非、地域に合った、自分達が納得するやり方で進めてみてください。

本事例集でも、事例2（和気町）、事例4（浅口市）で、実際に使用している見守りカードを紹介していますので、参考にしてみてください。

「ネットワーク」って何？ ～ご近所福祉ネットワーク活動の目指すもの～

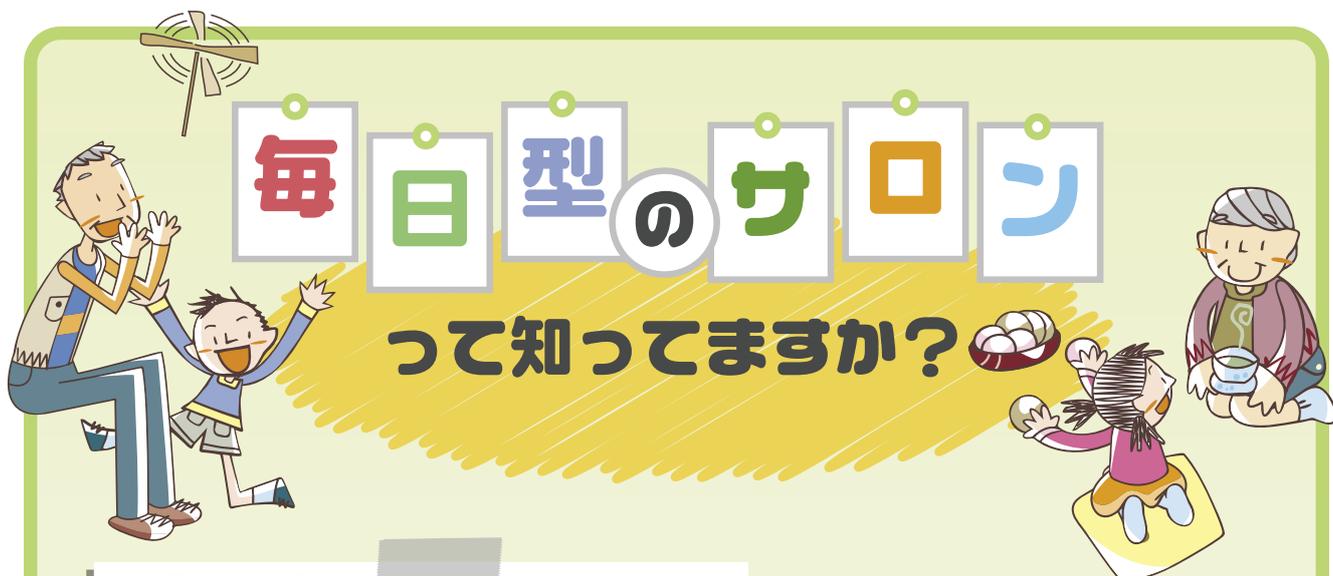
見守り活動をするにあたり、誰か一人が問題を抱え込んで、相談できないような状況を作らないようにすることが必要です。そのためには、日ごろから見守りを行う人同士だけではなく、社会福祉協議会や地域包括支援センターなど専門機関とも情報を共有することが必要です。しかし、お互いに情報を共有するための信頼関係がないと、ただ必要だからという理由だけで、情報を交換しようとしても、うまくいかないこともあります。

ご近所福祉ネットワーク活動の、ネットワークとは、困ったときに、相談をできる流れ・関係のことをさします。地域の課題は、そこに住んでいる人だけで解決することは大事ですが、できないものは、すぐに専門機関に連絡、相談ができることが重要です。

これを分かりやすくいうと、「ちょっとしたことでも『助けてといえる関係』、お互いが SOS を出しやすいまちづくりがご近所福祉ネットワーク活動の目指すもの」と言えます。

ご近所福祉ネットワーク活動が目指すものは
お互いが、「助けて」と言えるまちづくり





サロン名 **サロン・なんだ村** (岡山市南区灘崎)
岡山市南区灘崎町宗津 208 番地

団体名 **特定非営利法人
ホッと灘崎ボランティアネット**



サロン・なんだ村は、岡山市南区灘崎町にできた、平日は、毎日開いている常設型のサロンです。NPO 法人 ホッと灘崎ボランティアネットが運営しており、営利を目的しない地域福祉の新たな拠点として、活動の全てをボランティアの支援によって行っているということです。

運営に関わっている方が住んでいた民家を改造した木の香りたどよう素敵な場所を拠点に、食事(おいしい!取材当日は、肉じゃが・白あえなど)やおやつを提供する「なんだ村カフェ」(有料)や、竹細工や工芸ができる工房、編み物などの各種クラブ、さらには、足湯の施設もあります。

また福祉有償運送も行っており、ボランティアスタッフには、このサロンの利用料や有償運送の「ホッとカー」の利用に使える地域福祉通貨「ボラン」が積み立てられています。

いつも笑顔で出迎えてくださる理事長の八田さん、村長の安達さんは、地域の孤立をなくし、人と人が楽しみ、喜びを味わうことで、生きがいを生み、心も体も健康になることで、安全・安心のまちづくりを目指していくという理念のもとに運営されており、参加するみんなが楽しく活動をされています。

今後は、環境問題にも積極的に取り組んでいくということで、地域の拠点として、ますます活動は広がっていきそうです!

サロン・なんだ村へのお問い合わせ TEL : 08636-2-2519

“ふれあい”から
“支え合い”へ!

📌 事例集に関するお問い合わせはこちら

岡山県社会福祉協議会 地域福祉部

〒700-0807 岡山市北区南方2丁目13-1 きらめきプラザ3階

TEL:086-226-2835 FAX:086-225-6602

“ふれあい”から
“支え合い”へ!

平成21年3月

おokayama小地域福祉活動事例集

ご近所福祉

ネットワー^ク活動
😊

サロンで生まれたつながりが地域を変える!!

岡山県社会福祉協議会 地域福祉部
ご近所福祉ネットワーク活動・支え合いマップ研究会